

2018年2月21日

電通が「全国Uターン移住実態調査」を実施 — Uターン移住が生活満足度をアップさせる—

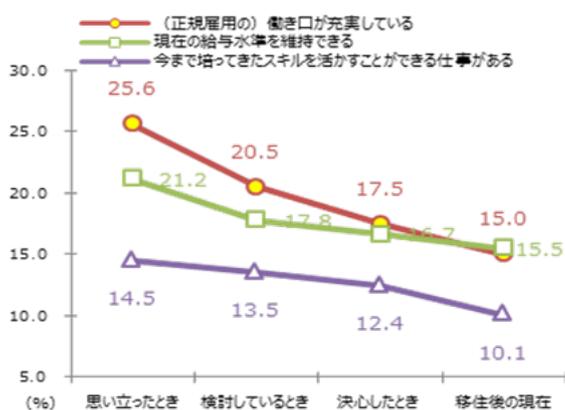
株式会社電通（本社：東京都港区、社長：山本 敏博）は、地方創生によるUターンが加速する中、全国64都市に現在在住し、実際にUターン移住を経験した20～60代の男女1,714人を対象に、「全国Uターン移住実態調査」を行いました。

なお、本調査でのUターン移住者とは、出身地を出て首都圏（東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県）で生活をした後、現在は自らの意思で自分または配偶者の出身地およびその周辺で暮らしている人のことを指し、転勤などの外的要因によるUターンは含まれておりません。

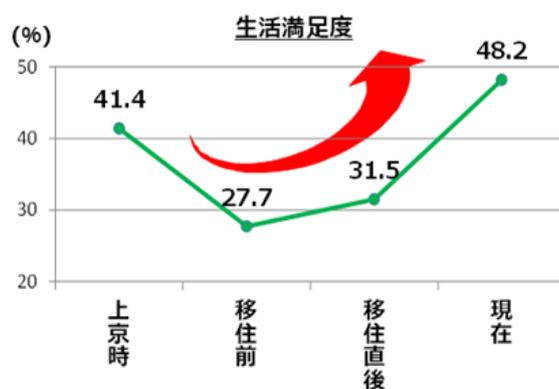
調査結果によると、Uターン移住のきっかけとして、ストレス、親、郷土愛と大きく3つの要因が影響していることが分かりました。「首都圏はずっと住める／住む場所ではない」（28.1%）などの、首都圏生活の魅力の低減とストレス。「両親の近くに住みたくて」（24.5%）などの親のこと。そして「離れてみて改めて地元の魅力を再認識して」（14.5%）という郷土愛です。

Uターン移住者の不安材料は「仕事」や「お金」に関することが挙がりましたが、移住後の具体化とともにその不安度が軽減されていきます（下図左）。「上京時」「移住前」「移住直後」「現在」の4つのフェーズでそれぞれの生活満足度を10点満点で聞いたところ、「上京時」は満足度8～10の「かなり満足度が高い人」が4割もいたのが、東京にいる間に27.7%まで下降。しかし、移住後の「現在」を見ると満足度の高い人は48.2%と、多くの人がUターン後に生活満足度が高まっていることがわかりました（下図右）。

Uターン移住者の仕事不安の変化



移住前・移住直後・現在の生活満足度



このほか、主な調査結果は以下のとおりです。

- ・ Uターン移住者の5割以上がいずれ戻るともりで上京
- ・ 約6割が思い立って半年以内に踏み切っている
- ・ Uターン理由は、若年層は東京ストレス、働き盛り・熟年層は親の事情

調査結果の詳細は次ページ以降をご覧ください。

<調査概要>

- ・ タイトル：全国Uターン移住実態調査
- ・ 実施時期：2017年10月19日（木）～11月6日（月）
- ・ 調査手法：インターネット調査
- ・ 調査会社：株式会社電通マクロミルインサイト
- ・ 調査対象：20～60代のUターン移住者1,741名

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通 コーポレートコミュニケーション局 広報部
小川、升森 TEL：03-6216-8041

【本調査に関する問い合わせ先】

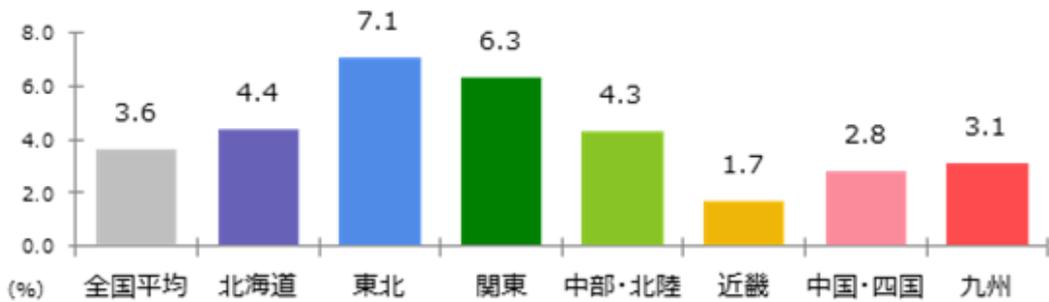
株式会社電通 第15ビジネスプロデュース局 地方創生室 ソリューション開発部
小林、越智、廣川 TEL：03-6216-9534

《参考データ》

①Uターン出現率は東高西低

人口あたりのUターン者の出現率を算出すると、東北が7.1%と一番高く、近畿が1.7%と一番低くなり、東高西低の傾向が見られます。全国（64都市）平均は3.6%です [図1]。

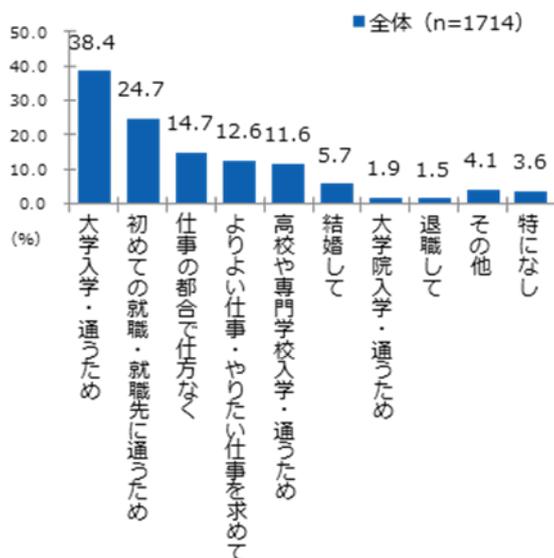
[図1] Uターン出現率



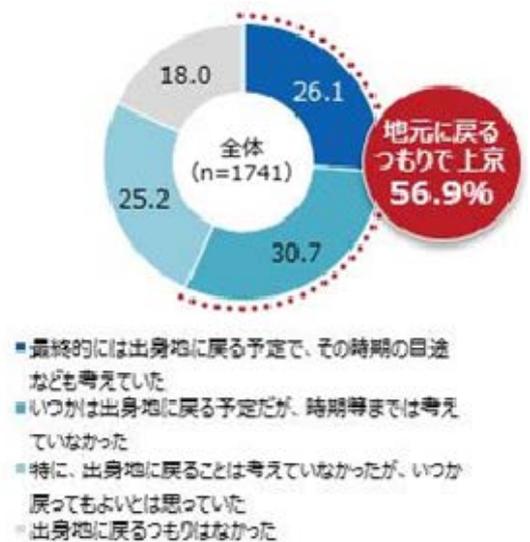
②Uターン移住者の5割以上がいずれ戻るともりで上京

Uターン移住者が首都圏に住み始めたきっかけは、「大学入学／通うため」(38.4%)、「初めての就職／就職先に通うため」(24.7%)という理由が上位で、進学や就職で首都圏に上京するケースが多くなっています [図2-1]。元々首都圏に永住する意識はそれほど高くなく、「最終的には出身地に戻る予定で、その時期の目途なども考えていた」(26.1%)と、「いつかは出身地に戻る予定だが、時期等までは考えていなかった」(30.7%)を合わせると半数以上(56.9%)がいずれ戻るともりで上京しています [図2-2]。

[図2-1] 首都圏に住み始めたきっかけ



[図2-2] 地元に戻る意識



③Uターン移住の平均年齢は、36.7歳

首都圏からUターン移住した時点での年齢は、平均で36.7歳となりました。
 首都圏で暮らした年数を聞くと、「5年以上」(45.7%)が多くなっています [図3]。
 ※移住した時の年齢は、「現在の年齢」－「移住からの経過時間(年齢幅の中央値)」で算出。

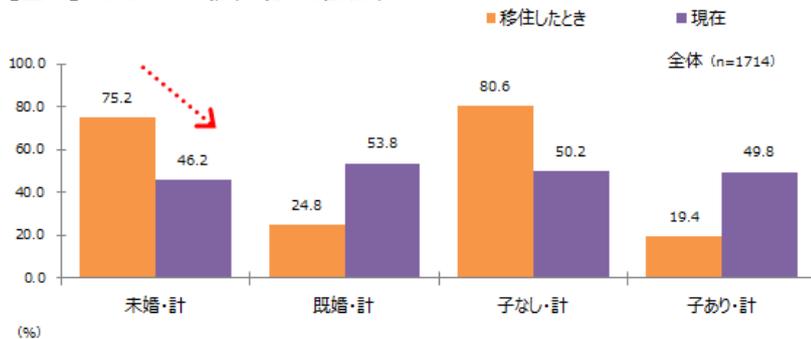
[図3] 首都圏で暮らした期間



④Uターン移住前の未婚率が高い

移住した時と現在の婚姻状況を調べてみました。すると、移住した時は75.2%が未婚ですが、現在の未婚率は46.2%となり、Uターン移住後に約3割(29.0%)が結婚しています [図4]。
 ※参考：37歳の東京都の未婚率は32.1%です。

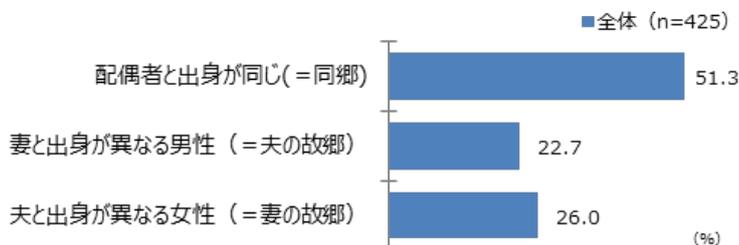
[図4] Uターン移住者の婚姻率



⑤Uターン意向は既婚の場合、妻の意向がやや強い

Uターン移住者と配偶者の出身地を見ると、配偶者と同郷が51.3%、出身が異なるのが48.7%ですが、出身が異なる場合、妻の故郷へUターンするのは26.0%で、夫の故郷にUターンする(22.7%)よりもやや多くなっています [図5]。

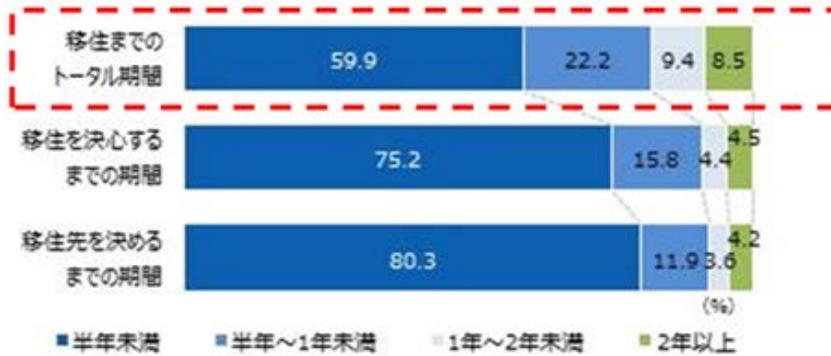
[図5] Uターン移住者の自分と配偶者の出身地



⑥約6割が思い立って半年以内に踏み切っている

Uターン移住に対する不安は完全には拭いきれないものの、移住を思い立ってから実行するまでは「半年未満」(59.9%)が6割を占めています [図6]。

【図6】Uターン移住を決心するまでの期間

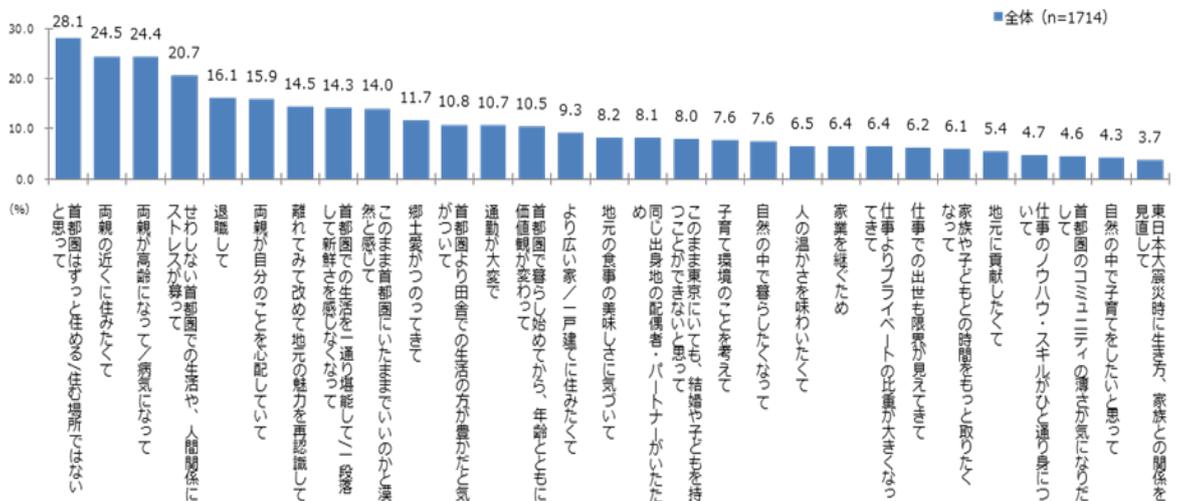


⑦移住のきっかけは、ストレスと親のためと郷土愛

Uターン移住のきっかけを聞くと、

- ・第1が「両親の近くに住みたくて」(24.5%)、「両親が高齢になって／病気になって」(24.4%)など親のことです。
- ・第2が「首都圏はずっと住める／住む場所ではない」(28.1%)、「せわしない首都圏での生活や、人間関係にストレスが募って」(20.7%)、「首都圏での生活を一通り堪能して／一段落して新鮮さを感じなくなつて」(14.3%)、「このまま首都圏にいたままでいいのかと漠然と感じて」(14.0%)など、首都圏生活の魅力の低減とストレス。
- ・そして第3は郷土愛です。「離れてみて改めて地元の魅力を再認識して」(14.5%)、「郷土愛がつのってきて」(11.7%)などの意見が見られました [図7]。

【図7】Uターン移住のきっかけ



⑧Uターンのきっかけを年代別にみると、若年層は東京ストレス、働き盛り・熟年層は親の事情

Uターン移住を考え始めたきっかけを聞くと、

・20～34歳の若年層は、「両親の近くに住みたくて」(27.1%)が高いものの、「首都圏はずっと住める／住む場所ではないと思って」(26.6%)、「せわしない首都圏での生活や、人間関係にストレスが募って」(22.7%)など東京に対するストレスが大きくなっています。

・対して、働き盛りの35～54歳では「両親が高齢になって／病気になって」(31.5%)、「両親の近くに住みたくて」(23.1%)など親の事情によるものが大きくなっています。

・また、55～64歳の熟年世代では「両親が高齢になって／病気になって」(43.7%)と、「退職して」(43.1%)をきっかけにUターンする人も増えています [表1]。

それぞれの理由をカテゴリーで分けると、20～34歳の若年層は「東京ストレス」(47.0%)で、働き盛りの35～54歳は「親の事情」(56.9%)か「東京ストレス」(47.3%)がUターン移住のきっかけですが、55～64歳の熟年世代では「親の事情」(56.5%)に次いで「人間らしい生活」(31.0%)を望んでUターン移住しています [図8]。※年代はUターン時の年齢

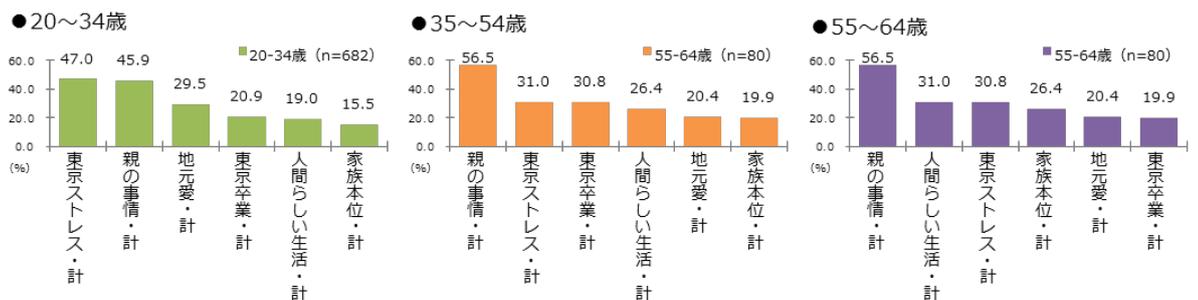
[表1] Uターン移住のきっかけTOP5

	20-34歳 (n=682)	35-54歳 (n=850)	55-64歳 (n=80)
1位	両親の近くに住みたくて 27.1	両親が高齢になって／病気になって 31.5	両親が高齢になって／病気になって 43.7
2位	首都圏はずっと住める／住む場所ではないと思って 26.6	首都圏はずっと住める／住む場所ではないと思って 31.2	退職して 43.1
3位	せわしない首都圏での生活や人間関係にストレスが募って 22.7	両親の近くに住みたくて 23.1	両親の近くに住みたくて 20.3
4位	両親が自分のことを心配している 17.6	せわしない首都圏での生活や人間関係にストレスが募って 19.9	仕事よりプライベートの比重が大きくなってきて 19.8
5位	退職して 16.5	このまま首都圏にいたままでもいいのかと漠然と感じて 15.6	より広い家／一戸建てに住みたくて 18.8

(%)

■ 全体より
■ =10ポイント以上高い
■ =5ポイント以上高い
■ =10ポイント以上低い
■ =5ポイント以上低い

[図8] Uターン移住のきっかけ (カテゴリー別)



⑨Uターン検討時期の不安材料は、仕事とお金のこと

※年代はUターン時の年齢

Uターン移住を検討しているとき、どんな不安を感じたのかを聞いてみました。

・20～34歳の若年層は、「自分が求める職種の仕事がない／なさそう」(18.5%)、「仕事の種類・幅が少ない／少なそう」(17.1%)と仕事のこと。

・35～54歳の働き盛り世代も、「仕事の種類・幅が少ない／少なそう」(21.0%)、「自分が求める職種の仕事が少ない／なさそう」(17.7%)と仕事のこと。

・55～64歳の熟年世代は、仕事のことより暮らしぶりがどうなるかの方が気になるようです。「移住後の生活費／やりくり」(19.1%)、「情報量が少ない」(17.6%)ことへの不安が比較的高いのですが、「特になし」(57.7%)と他の世代に比べると不安度は低くなっています [表2]。

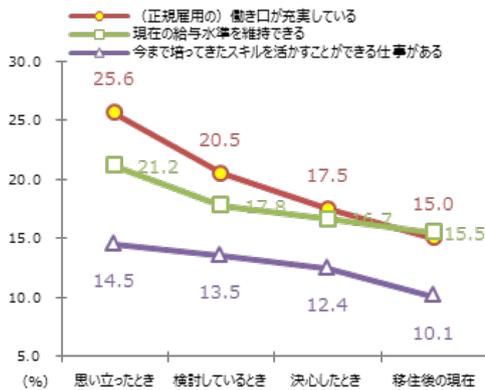
[表 2] Uターン移住に対する不安 TOP5

		20-34歳 (n=682)		35-54歳 (n=850)		55-64歳 (n=80)	
1位	自分が求める職種の仕事がない/なさそう	18.5	仕事の種類・幅が少ない/少なそう	21.0	移住後の生活費/やりくり	19.1	
2位	仕事の種類・幅が少ない/少なそう	17.1	自分が求める職種の仕事がない/なさそう	17.7	情報量が少ない	17.6	
3位	移住後の生活費/やりくり	15.1	自分のスキルを活かせる仕事がない/なさそう	16.2	自分が求める給与水準の仕事がない/なさそう	15.9	
4位	自分が求める給与水準の仕事がない/なさそう	14.3	移住後の生活費/やりくり	15.8	自分のスキルを活かせる仕事がない/なさそう	13.8	
5位	移住にかかる経費用/金銭的負担	13.1	自分が求める給与水準の仕事がない/なさそう	15.3	自分が求める職種の仕事がない/なさそう	12.6	
	特になし	40.8	特になし	45.2	特になし	57.7	

⑩仕事の不安度も次第に減少していく

Uターン移住を「思い立ち」「検討し」「決心し」「移住後の現在」の4つの段階で、不安度がどのように変化したのか聞いた結果、「働き口が充実しているか」、「給与水準を維持できるか」、「スキルを活かす仕事ができるか」の3項目について見ると、いずれも不安度は軽減されていくことがわかります[図9]。

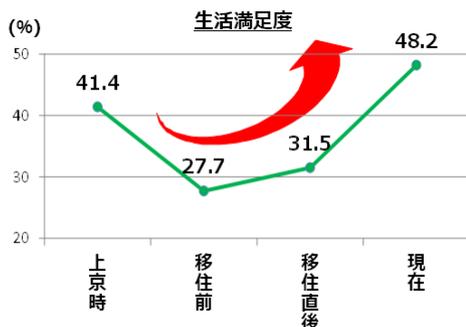
[図9] Uターン移住者の仕事不安の変化



⑪Uターン移住すると、生活満足度は高くなる

「上京時」、「移住前」、「移住直後」、「現在」の4つの段階でそれぞれの生活満足度を10点満点で聞いたところ、「上京時」は満足度8~10の人が41.4%いたのが、「移住前」に27.7%まで下降。しかし、「現在」を見ると満足度の高い人は48.2%となっています。多くの人がUターン後に生活満足が高まっていることがわかります [図10]。

[図10] 移住前・移住直後・現在の生活満足度



以上